

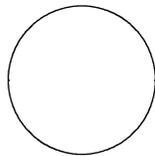
# JOMONあかでみい教科書1 縄文るねっさんすがはじまる。



火星 (半径3,397km)



月 (半径1,738km)



地球 (半径6,378km)

地球と月と火星のような  
壮大な視野から。

## 大切なまえがき

この本を、何のために書いたか、まずご紹介します。

皆さんの毎日の健康な生活とはどういうものか。そして平和な人間社会とはどういうものか。それを皆さんで工夫しやすい、新しいデザインの、ホームページや商品やイベントやチェーンストアを、創っていきこう。そういう新しい事業の方法を、皆さんに検討しても

らうために、この本を書きました。

わたしは、今年(二〇〇五年)で四十九歳になった、日本の男性です。十六歳のころから、平和な人間社会とはどういうものか、毎日の健康な生活とはどういうものかについて、自由に学び、深く研究してきました。特定の思想団体とか、特定の宗教団体に、とらわれていません。

「石の上にも三年」というコトワザがありますが、わたしの場合は、「石の上にも三十

三年」であったかもしれません。その長い自由な学びの結果、平和教育というものと、商業経営というものを、論理的に統一するシステムが、正解であると、考えるようになりました。

日本の江戸時代の偉い人としてよく例に挙げられる、二宮尊徳は、次のように言ったそうです。

「理念なき経済は罪悪である。経済のともなわぬ理念はたわ言である。」

これにわたしの考えをあてはめると、

「平和教育なき商業経営は罪悪である。商業経営のともなわぬ平和教育はたわ言である。」

となります。

日夜、商業経営や、一方、平和教育に汗水しておられる、プロの方々には、少しきついことばになってしまいますが、プロの方々に批判しているではありません。より良い可能性にともに挑もう、ということですよ。

平和教育商業経営システム。

これを提案する本のタイトルがなぜ、『JOMONあかでみい教科書1 縄文るねっさん』がはじまる。』(愛称)はじまる。』になるのか。それについては、本文においてゆっくりご説明していきます。

平和教育を商業経営にすると、どういうことが。

わたしたちのホームページは、JOMONあかでみいという名の平和教育の学校の、学

校案内です。

そのホームページの一部において、お客さまが魅力ある有益な情報へアクセスするとき、課金と言って、お金を頂きます。わたしたちのJOMONあかでみいに関連ある活動を、わたしたちのホームページで紹介するとき、その活動団体から、広告料を頂くことがあります。

わたしたちの商品は、平和教育のための教科書と研究用品です。そのうち、さまざまに

創っていく教科書のうちの核が、この本です。教科書も研究用品も、安くて良いものを創っていきますが、その代金は頂きます。

わたしたちのイベントは平和教育討論会です。入場料を頂きます。わたしたちの商品、つまり平和教育のための教科書と研究用品に對する、お客さまの質問や意見や修正案を、編集してわかりやすく紹介します。わたしたちの事業思想をお客さまに具体化していただく際の、ご相談に応じます。これらを通し

て、わたしたちの商品、つまり平和教育のための教科書と研究用品を、改善し、改革し、コーディネートしていく、参考とさせていただきます。

平和研究は、人間ひとりひとりが、自身の体内をていねいに感覚することが、基礎です。だれか偉い人の講演をおおせいで聞いて、やみくもに信じることはありません。平和研究の基礎は、独学の方法を身につけることです。わたしたちはお客さまに独学のヒントを

さまざまにご紹介します。

ですから、皆さんも、このわたしの言うことを、やみくもに信じないでください。ただし、ふしだらに疑わないでください。わたしの言うことを参考にして、何が正しいか、ひとりひとりで現実を確かめてください。もちろん、わたしとしては、わたしが正しいと思っただことしか、言いません。

わたしたちのイベント、つまり平和教育討論会を、積み重ねていき、毎日立ち寄れる店

がほしいという、お客さまの声が高まったら、わたしたちのチェーンストアを、順番に、開いていきます。わたしたちのチェーンストアは、平和研究のためのチェーン研究室です。それは、新しいデザインの、茶室チェーンです。日本の茶道のように高級な茶室ではありませんが、人と情報の出会い、人と人の出会いをとっても大切に、日本の茶道のこころは継承します。

その民衆向け研究茶室へ行くと、わたした

ちの商品、つまり平和教育のための教科書と研究用品を買えます。健康に良い無料または有料の飲み物を取りながら、毎日の健康生活や、平和な人間社会について、やすらいで独学し、冥想しやすいしくみとデザインにしています。親しい人と連れあい、遠慮のない討論を積み重ねることもよいでしょう。

その研究茶室において、世の中のホームページやDVDや絵やCDや相談人や健康グッズや健康食物や諸活動のうち、わたした

ちが良質と考えるものや人や活動を、わかりやすくコーディネートしてご紹介します。その一部はその場で買えるようにします。

そこは、健康生活や平和社会について、人間ひとりひとりが自分の責任を確立していき、自尊心を確立していく、空間です。人間というものは、自分の責任や自尊心を確立しないと、寂しさがなくなりません。そういう意味において、この空間の標語は、

寂しさから連帯へ！

です。この空間、つまりJOMONあかだみ研究茶室の名前は、  
るね（仮称）

です。るねっさんす（日本発のルネッサンスだからひらがなで書きます。）の愛称です。この空間の品質にしては安いと感じる入場料を頂きます。

この茶室チェーンの本部は、平和教育企画室です。法律上は、株式会社Y（未定）です。この株式会社（CEO）最高経営責任者（は、

つまり平和教育の学校の校長は、わたし、山田 学（まなぶ）です。学（まなぶ）は実はペンネームです。どこまでも謙虚に学び続けます、という意志を表明しています。  
わたしの夢は、茶室チェーンるね（仮称）を、国際的に展開していくことです。そのため、株式会社Yが認定する平和教育士を、正しく育成していきます。

ここまで読み、平和教育をなぜ商業経営にするのか、平和教育をなぜ国の税金や何らか

の寄付金を使って行わないのかと、質問したい方もいらつしやるでしょう。わたしは、国家とは何か、寄付とは何か、商業経営や資本主義の問題点とは何か、どうすればそういう問題を解決できるかまで、学問的に深く考え、平和教育商業経営システム。

という新しい結論に達しました。これについては、本文においてゆつくりご説明します。

この本は、わたしが平和社会や健康生活について学び始めたところと同じの、世界の十六

歳の少年少女にわかりやすい文体で、まず日本語で書きました。でも、もちろん、その年代の未来を大切に想う、多くの大人の方々にもぜひ読んでいただきたい、わりと高度な内容にしてあります。

二〇〇五年八月十五日 山田 学

## この本の要約

この本は娯楽として読み通せる文学ではありません。

新しい希望の事業の必要上、異分野のさまざまな大切な問題をまとめて扱いました。この本の全体像が視えにくい方もいらつしやるかもしれませんが、この本の要約をはじめに記しておきます。

この本は未来派必修の脱政治 Manifesto

述べました。そのために縄文研究の最先端を紹介しました。

第三章は健康と資本主義の関係を本質的に考えました。原始の日本に注目し今の日本に希望を見い出していくため、個人と社会について本質的に考えました。

第四章はまだ卒業できていない二十世紀思想を卒業しようという、新しい提案です。こつこつ思想運動こそが、健康な個人と平和な社会を用意します。

st oです。

「大切なまえがき」にて事業の目標を示しました。

本文は新しい事業の背景となる思想をさまざまな分野から語っています。

第一章は今の日本をどう位置づけたらいいのかを述べました。そのために日本と世界の歴史を大きくとらえ返しました。

第二章はかえって原始の日本に注目することが今の日本にとり新しい希望であることを

第五章は物理学や生物学に問題を提起するひとつの現象を報告しました。この現象を健康に平和に扱っていくわたしたちの事業の可能性を述べました。

第六章はしめくりとしてわたしたちの事業が人間社会の希望であることを述べました。

わたしの先生は、矛盾論理学(いわゆる弁証法)の三浦つとむ先生と、ヨガの世界的な権威の沖 正弘先生です。今のマスコミにお

いて、まったく異質と思われる二先生の  
 円卓会議（矛盾の解決）を、わたしの認識に  
 おいて代行しました。この本をよく読み、い  
 ずれ、二先生についてゆつくり調べていた  
 だけば、この二先生の大同団結こそが日本と世  
 界の希望であると、深く感動していただける  
 ことでしょう。  
 この本はあなたに贈りたい蘇生報告です。  
 健康平和祈念の正解事業を提案いたしま  
 す。

目次

希望の事業 34

大切なまえがき 3

第二章 原始の日本

この本の要約 11

「縄文記号」 39 齋藤先生の方法

第一章 今の日本

41 神話の奥に 43 縄文るねっさ  
 んす 45 最古の共通の夢想 46  
 理想 47

問題 17 鎖国と黒船 17 脱亜入

第三章 健康と資本主義

欧 20 ついに敗戦 23 アメリカ  
 式へ 24 マルクスについて 26  
 何を守るか 27 金融敗戦 28 精  
 神的に丸裸 30 原始と未来 32

53 神の人間化 51 健康の本質と商い  
 資本主義の問題 54 I C力

ド案 56

第四章 二十世紀思想を卒業

思想運動 61 前亜超欧 62 全面  
 を縦横無尽に 64 ゼノンの壁 66  
 三つの大切な論理 67 工学系の現  
 場から 73 逃避の「自由」 74  
 ひとつの信仰 80

の研究室 90 新しい発見 93  
 期的な現象と技術 97 塩の実験 101 画  
 今までの流れ 105 仮説 107  
 事業の精神 111

第六章 希望 119

二十一世紀の書

第五章 ひとつの現象

ひとつの男性 87 名古屋大学農学部

超歴史学研究会理事長 齋藤守弘  
 神奈川歴史研究会副会長 齋藤守弘  
 128